

様式 1-3 (統一栽培暦様式)

もっと安心農産物さやいんげん栽培暦 J Aきみつ 平川ハウスインゲン生産グループ

1. 土づくり

一般ふすまを利用した土壌還元消毒の実施。堆肥の利用

2. 施肥 ☆施肥診断に基づく施肥量の遵守 化成由来窒素上限 基肥+追肥 12 kg/10 a

基肥で有機由来窒素 100%以外の肥料を用いる場合は追肥に十分注意する。

	肥料名	成分量	施肥量	有機由来窒素
基肥	スーパー有機ペレット 5 5 5	5-5-5	480 kg まで	5 %
	ヘルシー有機 100 特号	5-6-2	480 kg まで	5 %
	有機アグレット 6 7 3 特号 H	6-7-3	480 kg まで	6 %
	有機アグレット 6 5 5 eco	6-5-5	480 kg まで	6 %
	スーパー有機ペレット 8 8 8	8-8-8	240 kg まで	3. 1 %
	ジシアン有機特 8 0 6	8-10-6	200 kg まで	2. 5 %
	インゲン専用 1 2 号	12-8-8	110 kg まで	1. 9 %
	ロイヤルグアノ	リン酸肥料	60 kg まで	-
追肥	トミー液肥 (レッド)	12-5-5	100 kg まで	0. 2 %
※灌水設備の無い圃場についてはスーパーエコロング 4 2 4 (100 日) を施肥する。				

3. 防除 化学合成農薬使用については、成分回数が慣行の 1/2 を超えないようにする (9 回まで)。

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)
2 月上旬	播種					育苗ハウス内の除草
中旬	移植					黄色粘着とラップを吊るす
下旬						
3 月上旬	定植	アブラムシ類 ハモグリバエ	アトマイヤー 1 粒剤	1~2g/株 (但し、6kg/10a まで)	アブラムシ類	ハウスの換気部、入り口にサンサンネット等
中旬						を張り害虫の侵入を防ぐ
下旬	追肥灌水	灰色かび病	アグロスリン乳剤	2000 倍	アブラムシ類・インゲンテントウ	
4 月上旬	摘心	アザミウマ類	カスケード乳剤	2000 倍	マメハモグリバエ	アブラムシ・コジラミ・ハダニ・ハモグリバエの発生原因で
中旬	追肥摘葉灌水	ハダニ類 菌核病 灰色かび病				あるハウス周辺の除草作業をする
下旬			アファーム乳剤	2000 倍	ハモグリバエ類	
5 月上旬	収穫開始		アミスター 20 フロアブル	2000 倍	灰色かび病・角斑病・菌核病	アザミウマ類多発圃場にはスワルスキーを使用し防除を行う
中旬	一番最盛		アクタラ顆粒水溶剤	3000 倍	アブラムシ類	
下旬			ダニトロンフロアブル	1000~2000 倍	ハダニ類	発生状況に合わせて 4 剤まで散布する。
6 月上旬	追肥灌水摘葉		セ化アフロアブル 20	1000~1500 倍	灰色かび病・菌核病	
			モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000 倍	アブラムシ類	
			パレード 20 フロアブル	2000~4000 倍	菌核病・灰色かび病	
中旬	二番最盛		セ化アフロアブル 20	1000 ~ 1500 倍	灰色かび病・菌核病	その他生物農薬等を利用して化学農薬の使用回数を減らしていく
下旬	終盤					

※農薬使用時は表示ラベルを再度確認し、登録内容を遵守する。